実 績 報 告

看 護 部

- 外　　来
- 2 階 病 棟
- 3 階 病 棟
- 4 階 病 棟
- 5 階 病 棟
- 南 病 棟
- 中央材料室

看　護　部

【業務内容】

①看護部基本理念「人々を敬い人権を擁護します」に基づいた看護の実践
・医療事故防止に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。
・権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。
・地域連携や信頼を高める看護実践を行う。
②各病棟プログラムの実施（心理社会療法他）
③委員会の運営
④看護学生の実習指導
⑤休日・夜間の看護責任番による入院患者管理体制と救急の受け入れ
⑥ベッドコントロール

【2021年度の振り返り】

2021年度も新型コロナウイルス感染症対策の対応に追われた１年間であった。感染対策の強化を図りながら、安全で質の高い看護を提供するために、看護部の取り組み項目を絞り込み、効果的に看護の質が向上できる体制の工夫を行った。

・入院患者様の口腔内チェックの強化
・与薬業務に関する教育の導入でインシデント減少を目指す
・接遇トレーニングの実施

口腔ケア担当者を配置し口腔チェックを強化したことで速やかに診療に結び付けることができ、重症化予防と生活の質に配慮した歯科医療の推進が図れたと思われる。誤嚥性肺炎予防を含めて口腔ケアの強化は継続していく。2020年度に全病棟に配薬BOXが配置されたが、薬剤による事故の減少が認められず、院内共通の与薬業務マニュアル改正とリスクマネージャ―主導の与薬に関わるビデオ作りを行い与薬教育への取り組みの強化を図った。職員への周知や教育の実施までには至らなかったが指さし呼称による薬剤確認などの確実な手順や手技を目で見ることでインシデント減少につながるか今後も経過をみていく。入院患者様がより安全な入院生活が送れるために信頼される業務が行えるよう継続してインシデントレポート件数で評価していく。接遇トレーニングでは具体的項目を決め（ナースコールの対応、ナースセンター入口での対応、認知症患者様への立ち振る舞い、プライバシーへの配慮、傾聴時の姿勢など）、２か月ごとのトレーニングと評価を行った。次年度も引き続き質の高い看護を提供するために看護部アクションプランを実践していく。

入院患者の歯科訪問診療実績：

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
往診回数（月）	2	2	2	2	1	3	4	5	6	6	6	7
往 診 数（人）	14	17	10	18	13	26	32	42	44	54	50	69

薬剤のインシデントレポート件数：

2020年度	116件	2021年度	123件

【今後の展望】

①病棟の心理社会療法プログラムを見直し、入院治療での患者満足度の向上を図る。

②看護の質の向上を目指す。

・クリニカルラダーの導入と治療に即した看護援助ができる人材育成を行い、急性期・救急医療の看護をさらに展開していく。

・研修への積極的参加でスタッフの主体的学習力がアップできる取り組みを行う。

・接遇に配慮した質の高い看護提供を実践する。

・小委員会の実働チームを設置し、看護部内の実践力アップを図る。

・多職種協働の実践力を身につける。

・記録力向上と記録時間の短縮に向けて看護記録の整備を行う（記録の基準、テンプレート記録セットの整備など）

③病院改革のサポートとより良い看護を提供していくために、急性期・救急医療が安定して稼働できるようなベッドコントロールを行う。

④退院支援の強化を行う。

疾患に応じた看護を確実に提供し、患者満足度の向上と退院後の地域生活の向上を考えたチーム医療の提供と地域支援者への確実なサポートに結びつける。

文 責　柴田　実子

【実　績】

看護職員の退職者数：

	4 月 1 日 新規採用者	正規職員 退職者数
看　護　師	10名（1名既卒）	10名
准看護師		0名
看護補助員		2名

看護職員の離職率：新卒看護職員 0 %　　常勤看護職員 0.9%

育児休業の取得水準：女性100%　男性65%

社会貢献：和氣一弘　「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」の委員（新潟市保健衛生部こころの健康センター）

有田　薫　新潟精神看護研究会事務局員

精神科看護講師（非常勤）：

国際メディカル専門学校　神田由香里　笹川雅彦　石本和之　本間貴行

私立加茂暁星高等学校看護学科専攻科　佐野有華

実習生受け入れ:

2021年10月25日～2022年 2 月 4 日 新潟医療福祉大学健康科学部看護学科 14名

2021年 5 月 7 日～10月25日 国際メディカル専門学校　看護学科75名

2021年 6 月 9 日10日・ 6 月16日17日 国際医療看護福祉大学校通信課程 9 名

外　来

【部署名】

外来

【職員数】

5名（看護師4名、准看護師1名）

【業務内容】

新型コロナ感染症対策に留意し、来院者の検温、スクリーニングの徹底、換気を行いながら対面診療を実施した。必要時ICTと連絡を取り合い、電話診療へ切り替えたり、感染外来を使用するなど柔軟に対応した。

- 診療の補助
- 持効性注射の実施、点滴や検査（採血、採尿など）、その他処置の実施
- 定期検査予定日の設定
- 入院時のベッド調整とスクリーニング
- 臨時受診調整と外来予約変更窓口の対応
- 精神科訪問診療の補助
- 夜間休日対応の集計
- 休日、夜間に連絡があった患者の情報収集と主治医への情報提供
- 救急外来、感染外来の管理

【今後の展望】

- 病棟、訪問看護、医療相談室、薬剤科、他部署多職種との情報共有と連携
- 未受診者の把握と、タイムリーな働きかけ
- 流行期にある感染症状況を常に把握し、業務にあたる
- クロザピン使用者の情報収集、カンファレンスの参加

文 責　畠山　恵子

【実　績】　外来患者の動向　（上段：月合計／下限：1日平均）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	1,929 91	1,556 86	2,159 98	2,323 110	2,105 105	2,138 112	1,988 90	1,844 97	2,066 98	1,822 95	1,781 98	2,234 97
2021年度	2,027 96.5	1,749 97.2	1,958 89	1,941 97.1	1,906 90.8	1,986 99.3	1,891 90	1,900 95	2,024 96.4	1,803 95.2	1,709 94.9	2,137 97

2020年度		2021年度	
合　計	24,048	合　計	20,894
一日平均	98	一日平均	94.9

【部署名】
2 階病棟

【種　別】
精神一般

【病床数】
54床

【職員数】
31名（看護師26名　看護補助員 5 名）

【業務内容】
2 階病棟は、施設内で唯一の開放病棟である。病棟の機能として、内科合併症治療の役割も担っており、中央配管方式を多床室でも完備している。そのため、外来や他病棟で内科治療が優先される患者が発生した場合は、速やかに 2 階病棟で受け、内科医のもと、指示に従って治療を開始している。また、 2 階病棟では機械浴槽を 2 台設置しており、寝たきりの患者や内科疾患で自力入浴が困難な患者でも、安全で衛生的に入浴ができ、他病棟の入院患者が機械浴槽を借りて入浴することもある。今年度は、コンパクトで誰でも操作できるタッチパネル付きの新しい機械浴槽とスムーズなウォークスライド可能な新しい担架に交換され、快適に入浴支援が出来ている。アメニティや治療環境の面から、 2 階病棟の入院患者の対象は、開放病棟での治療が可能な慢性期の精神疾患患者と、内科的疾患を合併し内科の治療が優先される患者と、一般入浴が難しい起立困難な高齢者が主である。患者の中には、経口摂取が難しいため、経管栄養を実施している患者が15名前後入院しており、チューブの管理をしながら栄養管理を行っている。急性期の内科治療も常時 5 名前後入院しており、点滴施行し全身管理しながら、ルートの管理も必要になってくる。どちらも大事なチューブやルートであるが、高齢者が多く治療の理解が得られず、拘束をせざるを得ない患者もいる。そのため、拘束の管理は日常業務となっており、内科的な身体状態を観察しながら、精神状態や拘束部位の確認も必要であり、日々行動制限の早期解除に向けカンファレンスを実施している。

日中は内科医とラウンドを行い、少しの変化も見逃さず、患者の声に耳を傾け、的確な指示を確実に実施できるよう対応している。その中には看取り治療の方も数名入院しており、ペインコントロールで麻薬の管理を行うこともある。看取り看護では、医師と共に患者に寄り添い、少しでも苦痛が緩和され、希望に沿った援助が出来るよう心掛けている。

今年度は、34名の患者を看取り、コロナ禍で面会が難しくなってから、家族の心情にも寄り添った支援が必要となっており、変化があれば家族連絡し情報の共有に努めてきた。終末期が近い患者には、タイミングをみながら、急変時の家族希望について細心の配慮をして希望を確認し、家族と相違がないよう治療を行っている。

今年度10月からは病院の方針が変わり、病床数は49床から54床に増床となり、認知症の患者やＡＤＬ全介助が必要な入院患者が増え、業務調整・業務整理を行い、看護の質の低下や事故がないよう取り組んでいる。

【病棟目標】
1．1）2021年度　2 階病棟目標と評価

目標：①ダブルチェックの徹底で与薬事故防止
②患者様・家族が安心できる看護を提供

評価：①について
与薬事故防止については、与薬業務の見直しや病棟目標としたことで意識も高まり、インシデントレポートでは前年度より 9 件少なくなっており評価できる。
②について
患者対応時は、安心感を持ってもらえる言葉掛けや援助に取り組み、家族には、コロナ禍で面会が難しかったため、状態の変化などを、洗濯の交換等で来院した際にお伝えし、また来院できない家族にはこまめに

電話連絡するよう心掛けた。反省が残るスタッフもいたが自身のかかわりや対応を見直すきっかけになった。

2）2022年度　病棟目標

協働しチームワークを活かした職場環境を確立する

2．1）2021年度　2 階病棟接遇目標と評価

目標：丁寧な言葉遣いと対応を心がけます

評価：今年度は目標を掲げたことや看護部のトレーニング等で、接遇について考える機会が多かった。トレーニングでは具体的な場面設定のトレーニングで、接遇の意識はより高まり、自身の立ち振る舞いや態度、言葉使いを見直すこともできたと思われる。敬語や言葉遣い（スタッフ間の言葉遣い含む)、ケア前後の声掛けなど、完全ではないが、個々が意識的に取り組むこともできるようになった。病棟内アンケートでは「まあまあできた」から「できた」の比率が上がり、周囲の接遇にも目を向けることができ気持ちの余裕も伺え、スタッフ間で互いに声を掛け合い、目標達成に向け取り組むことができた。

2）2022年度　2 階病棟　接遇目標

安心・気配りに配慮してまごころある対応を心がける

【今後の展望】

・内科機能としての役割を果たす
・一人の人間として尊重し尊厳を保持した看取り看護の提供
・患者や家族が安心できる支援や接遇の取り組み
・作業療法・回想療法等による機能の向上・維持を図る
・病棟目標達成のためチームワーク・声掛け・助け合いを意識した環境作り
・安心・気配りに配慮したまごころ支援で接遇目標達成を目指す
・誤嚥性肺炎防止も含めた口腔ケアの取り組み
・褥瘡 0 に向けた治療と予防の取り組み
・内科的治療のための行動制限早期解除に向けた取り組み

来年度、実現化に向け病棟職員全員で課題を共有し、目標に向かって取り組む。
看護の質を向上させ、2 階病棟としての機能の役割を果たす。

文 責　**神田由香里**

【実　績】

	特殊疾患入院施設管理加算対象率	個別身体リハビリテーション状況
4　月	70.7%	42
5　月	70.0%	43
6　月	70.0%	44
7　月	70.4%	31
8　月	72.1%	33
9　月	70.8%	34

※2022/10より特殊疾患入院施設管理加算中止

【回想法実施状況】 1 クール 8 回　毎週火曜日14時～

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
参 加 人 数	16名	7 名	19名	12名	15名	1 名	12名	12名	12名	8 名	16名	10名

2021年度回想療法参加人数　157名

【部署名】
3 階病棟

【種　別】
精神科急性期治療病棟 1

【病床数】
55床（令和 3 年10月末まで59床）

【職員数】
34名（看護師26名　看護補助員 6 名　精神保健福祉士 2 名）

【業務内容】
精神科急性期治療病棟 1 および医師配置加算16：1 を算定する病棟。そしてクロザピン新規導入治療病棟としての役割を担う。さらにCOVID－19感染疑い対応病棟でもあり、必要時に受け入れを行っている。

新規入院患者および急性増悪患者については急性症状の鎮静化と心身の安静に努め、症状や状態を理解・把握し、症状にあった治療（薬物療法・精神療法・心理社会療法など）とケアを行っている。 安全で安心できる環境と手厚い看護を提供し、受容的支持的関わりとチーム医療を集中的に展開することで、精神保健福祉士と協働し 3 ヶ月以内の退院と退院後のサポートを視野に障害福祉サービスや様々な社会資源の活用を調整する。

入院が長期化している患者については、病状や家族背景などを考慮し治療の継続と帰結に関しての相談や提案をしている。

クロザピン治療に関しては、コアメンバーがコーディネートする役割を担い、医師・薬剤師・検査技師などと連携し、スムーズな導入と継続治療に努めている。さらにクロザピン心理教育を実施し、患者自身の理解と対応を深めてもらえるよう関わっている。

【今後の展望】
- 精神科急性期治療病棟として定められた施設基準を継続的にクリアしていくこと。特に新規入院患者比率の維持については他病棟の協力なくして叶うことではないため連携力を強めていくことが必要。退院率については外来や訪問看護などアウトリーチでの関わりや協力も必要。さらには人的な余裕があれば、関係構築されている馴染みの病棟スタッフが支援できる体制を検討。
- クライエントパスの活用を促進していく。精神症状や状態把握または患者自身の症状評価を客観的に理解することやコミュニケーションツールとしての活用から回復への道しるべ、社会復帰へと繋げていきたいと考える。
- クロザピン新規導入者の受入れを計画的に行う。治療抵抗性統合失調症治療の知識や理解を深め、導入前面談・CPMS患者登録から導入までの流れ、導入後の対応など全てのことがスムーズに運用され、一年で 6 件以上の導入を維持していく。
- 心理社会療法を充実させていくこと。定期実施している回想法と同様に疾患別心理教育の導入を実現させる。

文 責　和氣 一弘

3 階病棟

【実　績】

1．入退院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均
入　院　数 （新規対象）	22 (14)	25 (14)	20 (15)	20 (11)	13 (8)	17 (10)	10 (9)	13 (11)	20 (17)	13 (10)	10 (9)	15 (15)	198 (143)
退　院　数	17	22	12	14	16	17	22	10	17	9	11	19	186
1日平均入院数	49.9	49.4	53.0	52.7	54.6	49.3	41.2	34.4	36.0	38.7	40.0	42.5	44.2
平均在院日数	76.8	65.1	99.4	96.1	116.8	86.9	79.9	89.7	60.4	109.1	106.7	75.2	92.0

2．新規入院患者比率と退院率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
新規入院比率	49.6	46.2	46.5	50.5	55.7	56.1	49.9	45.9	53.5	53.7	62.0	55.2	52.9
退　院　率	71.4	71.4	73.3	72.7	75.0	100	88.8	90.9	82.3	80.0	88.8	92.3	84.4
非再入院率 （3ヶ月以内）	83.3	83.3	91.6	80.0	85.7	100	100	81.8	93.3	88.8	100	100	92.1

※1月、2月、3月の退院率および非再入院率については暫定

3．クロザピン新規導入実績（2021年4月～2022年3月）

当院かかりつけ5名、クロザピン導入目的での転入院1名、計6名に新規導入

6名のうち2名が退院し、外来通院継続治療をしている。

【部署名】
4 階病棟

【種　別】
精神一般

【病床数】
58床

【職員数】
28名（看護師26名　看護補助員 2 名）

【業務内容】
比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者の他、救急病棟や急性期治療病棟の後方支援病棟として、症状の安定した患者や退院調整が必要な患者を受け入れている。

慢性期の長期入院患者には難治性患者も含まれ、より安全に配慮した環境とケアの提供が求められる。また、時に認知症患者の受け入れもあり、日常のケアや退院支援が適切に行われるように適宜見直し、チームで情報共有した関わりが重要と考える。

患者の特性としては、統合失調症の患者が大半で、平均年齢は60歳で20歳代から90歳代と幅広く、個別性を考慮した関わりが必要である。患者との関わりを密に行い、細かな変化に対応できる看護ケアが提供できるよう心がけている。

【今後の展望】
精神一般病棟としては 2 階・ 4 階・ 5 階病棟と連携して病床運用をしているため、長期入院者や難治性患者の病状悪化に対応する隔離室の運用が課題となる。

病院全体の流動的なベッドコントロールに対応できるよう、適切な空床管理が望まれる。

また、後方支援病棟として限られた期間内での退院支援や、難治性患者のクロザリル置換など、看護に求められる支援は多岐にわたるため、チーム内での情報共有や多職種との連携を強化していく必要がある。

入院患者の年齢層も幅広く、個別性を重視した看護の提供として、心理社会療法・SSTを行い安心安全な入院環境の提供と患者満足度向上を促進する。

感染予防対策により、家族や支援者との関わりは大きく減少した。看護スタッフから適切に情報発信をし、地域と継続した関わりが持てるよう支援したい。

文 責　鎌田　浩子

【実　績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計
入　院　数	2	4	2	1	2	5	5	7	4	5	4	6	47
退　院　数	3	3	4	4	6	8	4	9	7	4	4	5	61
転　入　数	12	5	4	5	5	6	5	6	3	5	2	3	61
転　出　数	9	6	2	3	2	4	7	5	1	4	6	1	50
1 日平均入院数	56.9	57.7	58.1	57.6	56.7	57.2	56.8	51.6	52.4	52.9	52.2	51.4	55.1

5 階病棟

【部署名】
5 階病棟

【種　別】
精神一般

【病床数】
58床

【職員数】
28名　（看護師23名・准看護師 2 名・看護補助員 3 名）

【業務内容】
慢性期の統合失調症患者や認知症の患者の割合が増えてきており、介護度も上がってきている。そのため、食事、排泄、清潔の日常の生活援助が業務の中心となる。自ら訴えることのできない患者も多いため、身体の異常の早期発見や小さな変化の気づきも重要となる。

心理教育プログラムでは、認知症患者対象の回想法の実施。

高齢者や認知症患者に対して、他職種と連携し家族相談やケアマネや他施設との調整、退院後の帰結先やサービス利用などスムーズな退院を目指すことで、救急病棟や急性期治療病棟の後方支援病棟としての役割を果たしていく必要がある。

【今後の展望】
・病棟環境の整備と事故防止
・身体機能の維持向上による転倒リスク軽減
・誤嚥性肺炎防止の口腔ケアの実施
・急変時の対応
・患者対応時の接遇意識の向上
・おもに高齢者による転倒・転落による事故の防止
・行動制限患者への早期解除に向けた評価と取り組み

文 責　布川征一郎

【実　績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計
入院数	2	2	1	1	1	1	2	0	1	2	2	2	17
退院数	7	4	8	1	5	2	7	3	4	2	3	6	52
転入数	15	11	9	7	6	4	9	3	4	7	6	2	83
転出数	9	8	2	7	2	5	7	2	2	1	5	2	52
1 日平均入院数	57.4	57.0	58.1	57.6	57.7	57.2	56.2	51.1	50.9	52.1	56.2	55.0	55.5

【部署名】
南病棟

【種　別】
精神科救急入院科１

【病床数】
60床（１階28床・２階32床）

【職員数】
44名（看護師40名・精神保健福祉士４名）

【業務内容】
南病棟は主に精神疾患の急性症状を呈する患者の症状改善と安全に務め、集中的な治療と看護を提供している。
患者に安心して療養できる治療環境を提供するため一般床49室はすべて個室、他に特別室２室、保護室９室、集中的な身体面の治療とケアが行えるPICUを設置している。
個別受け持ち制＋機能別看護で入院時から担当看護師と精神保健福祉士がかかわっている。本人や家族に対して必要な情報提供や支援体制の提案、心理社会療法プログラムの選定（病状自己管理モジュールSST・心理教育・認知行動療法・統合失調症プログラム・回想法・作業療法）、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など担当看護師がコーディネート役として、患者が担当スタッフと話し合いながら主体的に治療を進めている。その他臨地実習指導者を中心として、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護について深い学びができるよう関わっている。

【今後の展望】
・措置入院者退院支援計画の策定を実施し行政や関係機関との連携を継続して行う。
・精神科救急急性期医療入院料算定要件を維持する。
・急性期治療病棟と連動でき、安定した病棟運営から病棟内の力を集結した看護援助や支援の強化を行う。
・個別性を重視したバリエーションがある看護の提供を目指し、安心安全な入院環境の提供と患者満足度向上を促進する。

【今年度の振り返り】
精神科救急病棟として速やかな入院受け入れを整備するため、退院調整シートの活用が課題となっているが、パスを有効に活用するため、退院カンファレンスシートを導入し運用を開始した。入院したすべての患者を対象に入院10日目を目途にカンファレンスを実施し、入院目的・治療方針の確認、 その上で退院時の状態像を共有し、どのような支援が必要かをチームで協議し、速やかな治療と治療方針に沿った看護ケアの提供、退院後のサービス調整を行った。
高齢患者の入院が増加したことで、身体的な治療を必要とするケースも増加。スタッフ個々が、的確な医療を提供できるよう人材育成を継続していく。また、病棟内の感染対策を継続し、高齢者の転倒防止や与薬のエラーなどのインシデントの改善に努め、リスクのある患者様への配慮を怠らず、安心安全な入院環境が提供できるよう丁寧な看護を実践して行く。

文 責　佐藤　敦子

【実　績】

1．病棟利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日平均入院数	56.3	56.9	57	57	56	53.5	54	55.2	57.6	56.8	56.3	55.7
病床利用率	93.9	94.8	95	95	93.3	89.2	59.9	91.9	96	94.7	93.8	92.9
入院数	34	29	33	34	32	34	33	28	34	33	22	34
退院数	34	32	33	24	31	33	37	24	34	31	28	34
平均在院日数	52.8	63	55.2	53.5	59.9	46.4	67.1	56.3	57.2	48.6	53.1	55.8

2．新規入院患者入院率と退院率（%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	99.5	99	99.9	100	98.7	99.4	99.5	100	100	100	99.6	98.7
退院率	90.9	88.6	74.3	87.5	85.7	90.3	87.5	83.9	83.9	75	81.5	75.8

3．各種プログラム参加状況（月あたりの平均参加者数と年間延べ参加者数）

	平均参加者（月）	延べ参加者数
SST	3.5	42
心理教育	37.1	446
統合失調症プログラム	3.3	40
回想法	25.9	311
CBT	8.75	105

元気回復プラン（WRAP）試みとして1名に実施

【部署名】
中央材料室

【職員数】
3名（検査科スタッフが兼務）

【業務内容】
・各病棟からの注文伝票による医療材料（酸素ボンベ・携帯酸素含む）、衛生材料（患者様のオムツ等）の払出し。
・必要物品の担当業者への発注と納品された物品の検品。
・全病棟から受け取っている医療器材の高圧蒸気滅菌による滅菌消毒。
・患者様の介護用品（車椅子、保護帽、シルバーカー等）の受注、及び担当業者への発注と用品の納品。
・院内に設置されているAEDの点検と管理。
・依頼のあった医療機器及び材料等の研修会についてメーカー担当者と調整。
・院内で使用している物品の点検補修。

【今後の展望】
・昨今、日々世界情勢目まぐるしく変化し物流が安定しない日々が続いている。常に新たな情報を関係者と共有し、医療材料・衛生材料を安定供給することで診療現場での混乱を未然に防げるように努める。
・年々、精神及び身体的に多種多様な病態の方が増え、必要となる医療材料の種類も増えていると感じる。引き続き医療材料に関する新しい情報を収集しより良い物品を提供していく。
・患者様が介護用品等を購入する際には、各部署スタッフと一緒に一人ひとりに適したものを提供して、日常生活がスムーズに過ごせるように手助けをしていく。

文 責　村木　憲一

【実　績】
・今年度は新型コロナ感染症対策のため、外部講師を招いての集団講習会は企画できなかった。